

# 療育支援専門部会進捗報告について

平成30年8月10日

燕市障がい者自立支援協議会

# 1、取組の経過

	取 組	成 果	課 題
<p>平成 27年度</p>	<p>●障がい等のある子どもへの途切れない支援体制の構築をめざし、検討を開始</p> <p>・検討の場として療育支援専門部会を設置</p>	<p>ライフステージにおける情報のつなぎについて課題が浮き彫りになる</p>	<p>保育園、学校等での情報等の引き継ぎの現状が不明確なため、対応策を見出しづらい。</p> <p><b>引き継ぎの実態把握の取組が必要</b></p>
<p>平成 28年度</p>	<p>●保健センター、保育園等、小学校、中学校へ訪問し、引き継ぎについての聞き取りを実施</p>	<p>引き継ぎの内容、書式、時期、独自の工夫など、詳細な現状を把握することで、引き継ぎだけでなく、横の連携に関する問題が見えてくる。</p>	<p>・情報の引き継ぎについて、文書のみでは不十分なケースもあり、口頭による引き継ぎもある。</p> <p>・複数機関が関わっていても、保育園、小学校、中学校など単独機関の情報で引き継がれるケースが多い。</p> <p>・分野によっては、関係機関の存在や役割を知らない。</p> <p><b>横の連携促進のためのつなぐ役割の担い手の必要性やあり方の検討が必要</b></p>

	取 組	成 果	課 題
平成 29 年度	<p>●つなぐ役割の担い手として</p> <p>①関係機関から事例相談の受付</p> <p>②事例の問題整理と対応策の検討</p> <p>③支援会議等の開催調整</p>	<p>●事例対応のつまずきの解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の協力による、対応策の広がり。</li> <li>・支援者と保護者の橋渡し。</li> <li>・支援会議開催の協力。</li> <li>・支援担当者と共に動くことによる連携の啓発。</li> </ul> <p>●つなぐ役割の有効性と限界が見える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなぐ役割の担い手による効果が見える。</li> <li>・つなぐ役割の担い手だけでは解決できない部分がある。</li> </ul>	<p><b>関係機関が連携した支援体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一機関の支援には限界があり、関係機関で協力した対応が必要であるが、連携の意義や関係機関の業務、役割等がわからないことから協力しづらくなっている。</li> <li>・支援会議で対応策や成果が見えにくいと、連携が継続しづらい。</li> <li>・コーディネーター役を担う支援者がいない事例では、各機関の支援がバラバラになってしまう。</li> <li>・放課後児童クラブや福祉サービス事業所、相談支援事業所など、ライフステージ移行期に支援経過を共有しづらい関係機関がある。</li> </ul> <p><b>保護者支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が本人の困難さに気づけないことから、支援を結び付けにくいことがある。</li> <li>・窓口が多様化する中、保護者が適切な窓口に相談できるよう、困り事の整理や相談先の選択に</li> </ul>

必要な情報提供の支援が求められる。

- 園や学校等の支援者と保護者の相互理解の不足から、協力し合うことが難しくなる場合がある
- 障がいについて知る機会や、同じ悩みを持つ保護者と話す機会を求める保護者も多い。

### **支援者の人材育成**

- 異分野の関係機関と関わることで視点の広がりや、学びにつながることから、話し合いや意見交換の機会が求められる。
- 障がい児等への対応は多様で、困り感を抱えている支援者も多い。
- 部門や機関によって研修会の機会に差がある。

### **体制づくり**

- 中学校卒業後の事例と対応の課題がまだ見えにくい。
- 事例や取組から見える課題をもとに方策を検討していくことで、体制づくりにつなげる。

## 2、今後の取組

取 組		H30	H31	H32
関係機関が連携した支援体制	つなぐ役割の担い手 ①社会福祉課療育支援班の周知 PR ②関係機関の相談の対応 ③支援会議運営の工夫	①周知 PR の拡大 子育て支援センター、 児童クラブ、特別支援 学校		
	コーディネーター研修 対象：保健センター、幼保こども園、小中学校、 相談支援事業所、サービス事業所等	2 回開催 1 回目 8/28 2 回目 12 月（予定）		
	関係機関の一覧表	検討		
保護者支援	保護者にわかりやすい相談窓口の検討	事例の整理	あり方の検討	
	気づきの啓発		取組の検討	
	保護者向けの講座			
	保護者支援の把握と整理			
体制づくり	取組のまとめと課題の整理			
	療育支援専門部会における検討	3 回開催 (7/13、10/2、1/15) 第 1 回 「関係機関の一覧表」について		

### 3、「関係機関が連携した支援体制」に向けた取り組み

#### (1) 連携することの良さと、しづらさ

単独の支援機関でできることには限界があるので「連携」は重要。しかし他機関と関わるのは、慣れていないため「不安」「億劫」・・・

##### 連携することの良さ

- ・ 広い視点で多角的にケースを視ることができる
- ・ 将来を見通した幅広い支援が可能となる
- ・ 本人、保護者の安心感につながる

##### 連携のしづらさ

- ・ 各機関の役割がはっきりしない
- ・ 担当者や連絡方法、時間帯などが不明である
- ・ 顔のつながりがない
- ・ 支援会議を開催するが対応策が見出せないと、連携が継続しにくい

##### 【対応策】

関係機関の一覧表  
の作成

#### (2) 関係機関の一覧表の作成と効果的な活用のための工夫

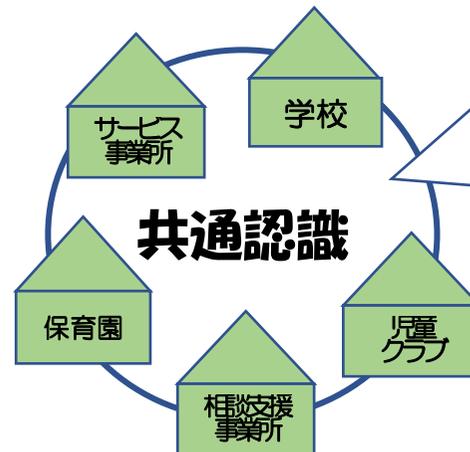
##### ①一覧表作成の工夫

###### 【関係機関の一覧表】

- ・ 内容は**シンプル**で見やすいもの
- ・ 活用のための**マニュアル**や**手続き表**
- ・ 連携**事例の紹介**

##### ②共通認識づくり

各支援機関の窓口担当者が「**物事を相手に任せきりでなく、複数の異業種で一緒に解決することが当たり前である**」という認識を持つことで、今以上に様々な問題をスムーズに解決することができる。



##### コーディネーター研修の開催

例えば・・・

各支援機関の窓口担当（コーディネーター）が集まり、よくある問題について異業種のグループで対応のシミュレーションを行うなどの取組で、お互いの窓口への理解を深め、複数機関での問題解決が当たり前という意識の醸成を図る。